

本誌読者 小林りえ さんからの投稿。地元探鳥会に参加してから野鳥に関心をもちました。3月2日お連れ合いと一緒に参加した多摩川探鳥会で見たアオサギ2羽で作ったハート型。幸せな気持ちになりました。コサギ、ダイサギもいました。聖蹟桜ヶ丘駅の北側を流れる多摩川で見ました。

紅葉台



新聞

第177号

2025年

4月12日

発行人：関谷 孝

生産者・消費者の交流会 立川 2025.3.6



私が毎週宅配を受ける生協では「産直4原則」と言って①生産者・産地が明らか②生産履歴が分かる③環境保全・資源循環型農業④生産者と消費者との交流を大切にしています。

特に④は生協の根幹にかかわることで一番大事にしています。年に一度、農閑期のこの時期に交流会をしているので参加しました。（来年は23区で交互開催）

テーマは「産地の現在（いま）を知り気候変動と未来を考えよう」私たちが毎日食べることは作る人がいるからこそ。国内の作り手を応援するためにもこのような取り組みはとても有意義でした。食べることは命の源であり環境や社会問題を共に考えていくきっかけにもなります。生産者代表の5人が登壇しました。普段見えない生産者の思いを知ることが出来ました。

1. 大紀コープファーム

奈良県紀の川（吉野川）流域で主に梅・柿・干し柿を生産。自然環境の影響をもちに受けます。最近は気候変動のため雹、カミキリムシの被害で樹木が枯れます。そのため再度植樹し、新たな土地の開拓も進めています。また、物価が上がる中での消費の低迷も心配です。

2. 野菜園椎茸部会から「沃土会」

埼玉県北西部でミニトマト・野菜を大きなビニールハウスで生産。気候変動によりミニトマトの病気が蔓延しやすく夏の熱中症に気を付けている。何より人件費を考えると採算が取れないでいる。しかし、子どもたちに安心な食べ物を食べてほしいとの願いから「身土不二」「医食同源」の食べ物を作る思いが根底にあると話していたのが印象深かったです。



3. 鶏卵部会から「菜の花エッグ」

千葉県君津市の採卵養鶏場。卵は95%が国産。猛暑になると鳥も弱まるので採卵が少なくなる。最近は「アニマルウェルフェア」と言ってケージ飼いではなく平飼いで生き物を飼育することが世界基準になっている。また、鳥インフルの影響で200万羽殺処分など甚大な被害があり卵の供給が追いつかなくなり高騰した。世界でも生卵を食べられるのは日本だけと話していました。

4. 米部会から「謙信の郷」

新潟県コシヒカリ生産。猛暑や日照りによる水不足、日照不足の影響でお米の不作が続いている。農業に頼らずたくさんの生き物が住む田んぼで有機栽培米を作っている。何より大変なのは真夏の草取り。後継者不足のため離農する農家が増えているのが現状。しかし、やりが

いのある農業を目指し頑張っている。米の高騰が伝えられているが本来米が安く、農家の収入が低く採算が合わなかった。生協が値段を上げ買い支えてくれるので続けられている。

5. 畜産部会から「ポークランドグループ」

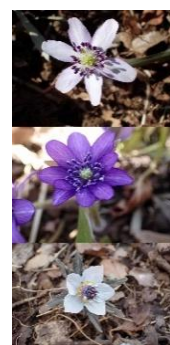
十和田八幡平国立公園を有する秋田県で養豚を中心とした「地域循環型・環境保全」の日本型農業に取り組んでいる。豚も健康飼育し健康な豚（アニマルウェルフェア）です。イノシシなどが媒介する豚熱で大量処分にならないよう外から病気を入れず、内からも健康な豚にと徹底している。飼育米配合割合を30%にした「こめ豚」飼育にも力を入れている。飼育の餌がいいと味もよくなる。これまでもたくさんの表彰を受けていました。

今回は72名の生産者が集まり交流会を持てたことは私達消費者にとって日本の農業の実情を知り理解することの大切さを実感する良い機会になりました。消費者も食べることを通して環境や社会の問題を知ることになります。そして毎日の食事がたくさんの方に支えられていることに感謝の気持ちがより深くなりました。「食えること」が日本の農業を支えていく力になっていくと心の底から思えた交流会でした。生産者の方の食材を試食しましたが、どれも素材本来の美味しさでした。



（写真は1～5の生産者の食材を使った試食です）

粕谷和夫の観察日記



日が長くなり、シジュウカラのさえずりが聞こえるようになりました。今年の東京は3月5日の啓蟄の前日に雪が降りましたが、この写真は3月1日に八王子・片倉城跡公園で撮ったものです。早春の花が咲きました。上の2枚がミスミソウ、下の1枚がセツブンソウです。3月下旬になるとカタクリ、アズマイチゲ、キバナアマナなども咲いてきます。



八王子の高尾梅林では、3月8・9日梅祭りが開催されました。この写真は落下した梅の花です。自然に落下したものではありません。この花を落とした犯人はスズメと思われます。メジロやヒヨドリは梅の花の蜜を吸いに集まりますが、これは花の前から蜜を吸って梅の花粉の媒介をします。しかしスズメは嘴が太いため花の前から蜜を吸えません。そこで花をちぎって後ろから蜜を吸います。梅の木には迷惑な盗蜜です。さくらでもこのような不自然な盗蜜があちこちで観察されます。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。